



今、地域で起きていること

★ 街なかで「ありがとう自衛隊」の宣伝が！

ふくおか西武教育を考える会

1か月ほど前、天神（繁華街）で「ありがとう自衛隊」という赤いのぼりをたててハンドマイクで宣伝しているグループに出会いました。自衛隊が災害救助で活躍していることから始まり、北朝鮮がミサイルを発射するので敵基地攻撃が必要だとか、今の憲法は占領下でつくられたから変えなくちゃいけないとか、宣伝しており、私たちの足元がこういう状況になっているのかとこわくなりました。

★ 沖縄の基地問題は本土の問題

市民連合オール宗像

沖縄の基地問題は本土の問題。1972年、米軍統治下の沖縄が日本に「返還」された時、本土にあった米軍基地がたくさん沖縄に移設されました。本土の人間はああよかった、無関心、ひとごと…ではなかったか。米軍兵士が女性に暴行した事件についても、本土の無関心がそうさせたと言っても過言ではないと思います。いじめもいじめ側の問題です。問題提起します。

★ 戦争をしてはいけない！

沖縄保育問題研究会

保育園にヘリの一部が落ちました。私の子どもも、小学校6年生ですが、普天間基地の近くの学校に通っています。運動会の時にオスプレイが7機ぐらい飛ぶのです。

彼が言いました。「お母さん、帽子にオスプレイ反対って書きたいよ」と。

私たちはもともとここに住んでいた。最初は日本軍の飛行場だったがそれを米軍が取って今になっています。1972年、沖縄が日本に復帰してから46回も飛行機が落ちているのです。復帰45年、毎年のようにヘリが落ちている。不発弾が2000トンあり、処理にあと100年かかるといいます。

戦争をしてはいけない！

沖縄から発信できることはそれです。

★ 「主権者教育とは」「政治的中立性とは」を深める必要が

高校・社会科教員

県教育委員会が「主権者教育をせよ」と言いますが、私を知るほとんどの学校では、地域の選挙管理委員会から投票箱を借りてきて、選管が選挙のしくみを説明し、生徒の何人かに投票させて終わり。これのどこが主権者教育か。10年くらい前は、社会科の授業で現在の政治状況などを話すと生徒の食いつきがよかった。でも最近は生徒の反応が違います。「先生の話は政治的にかたよっているのではないか」という生徒が目立ってきています。「政治的中立性」をどう考えていくかむずかしい課題だと思います。

★ 教育委員会の傍聴を

北九州子どもと教育のために手をつなぐ会

学校給食が民営化される動きをどうしたら止められるかをきっかけに、教育委員会の傍聴を毎月2回、ほぼかかざす20年近くやっています。

教育委員に思いを伝えたいと面談を申し入れても、非常勤だから時間が取れないと。代わりに教育長、総務部長、教育委員会事務局が対応し、今年もこのレベルの面談は実現しているのですが、総合教育会議が設置されてから教育委員会の姿勢が大きく変わったことを肌身に感じています。すべて市の意向の中での発言や姿勢が目立ち、教育委員になるまではとてもいいスクールカウンセラーと思われていたような人も、市の施策を「ありがとうございます。お疲れさまです」というような発言をし、企業の代表は企業との連携を強く主張します。

とても問題を感じながら、でも何らかの改善ができたらと思い、取り組んでいます。皆さんもぜひ教育委員会に関心を持って傍聴に取り組まれたらいいかかなと思い、報告させていただきました。

.....

いくつかの質問から

○佐藤 学さんへの質問

教員を退職して6年の方から、「安倍教育再生をおしこわすことが求められている。国民に対して、学力偏重主義や新自由主義の対抗軸になるような学校運営や授業など、民主教育の具体的なビジョンを出していただけませんか。また、全生研と学びの共同体の違いや同和教育について」などの質問がありました。

★ 学びの共同体について

佐藤 学さん

学びの共同体は25年くらい前から私が提起したものです。一人残らず子どもたちを学びの主権者に育てる、学校の構成員、子どもも教師も保護者もみんな主人公になれる学校、質の高い教育と平等を同時に実現するという理念のもと、公共性の哲学、民主主義の哲学、卓越性の哲学という3つのフィロソフィを掲げて具体的なシステムで運用しています。県によっては3分の1ぐらいの学校がネットワークに加わっていますが、九州は遅れています。

どんなに荒れた学校でも半年ぐらいで荒れはなくなります。先日行った学校は、首都圏にありますが453人の小学生で156人が欠食児童であり、26人は給食でしか食事をとっていない。保護者も傷ついているし、教師たちもズタズタです。そういう学校を内側からどうやって回復させるか、挑戦してまいりました。

神奈川のある中学校では、3年前まで324人のうち60人が不登校だった。これが3年間でゼロになりました。低学力でしたが、学力も全国水準を上回りました。

子どもたちが輝いて学びあう、教師たちもゆとりを取り戻していける、そういう改革をすすめてきました。

全生研の集団主義教育あるいは班学習とは違いますが、全生研の方々が私のすすめている改革に多く参加してきました。だから連続性はあると思いますが、何が違うのかは専門的になるのでここでは触れません。

九州の同和教育にはかかわってきませんでしたでしたが、大阪や兵庫など関西の同和教育にはかかわってきました。解放教育をやっていた学校が私たちの取り組みに参加してきました。

そのつなぎ手は、二つあると思います。一人ひとりの子どもの尊厳を守る、生きる権利の中心である学習権を保障する。さらに言えば、一人残らず安心して学べる学

校をつくる。ということです。

○内山 仁さんに対して

小学校の英語教育、部活動の加熱などをどう思うかとの質問がありました。

★ 英語の学習で何を身につけさせるのか

内山 仁さん

TOEIC、TOEFLなど、英語能力に関する資格試験を行う民間団体のテストを入試に使われることについての不安というのは全く同感です。ひさしを貸して母屋をとられるようなもので、大学の英語教育学者はもっと怒っていいと思います。

英語を小学校3年生から教えることより、英語教育とは何か、英語の学習で何を身につけさせるのかを考えるチャンスにしたらいいと思います。

部活はグレーゾーンだからこそ加熱し、生徒、教師や保護者の負担も増える。しかも最近評価の対象になっており、ますます過熱する状況です。

ただ、これから何らかの見直しがされていくと期待はしています。「部活はあなたにとって居場所か、競争か」と子どもに聞くと、意外と「居場所」という答えが多い。必ずしも「競争」で絶対勝たねばと思っている生徒は多くはないのではないかと思います。

.....

さらに、いくつかの発言から

★ 高校3年生の担任そしている方から「センター試験に記述式が導入されるというが、その採点は民間会社がやるとかで、予算が教育環境の改善ではなくそちらに流れていくのではないかと。調査書も非常に詳しくなり1年生から細かくチェックしデータを重ねていくので、先生も生徒も息が詰まるようになる。大学入試に関する情報を知りたい」との発言がありました。

★ また、教員を退職して10年の大牟田市民からは、「安倍首相が“美しい国、日本”を唱えているが、惑わされないようにするのにどうしたらいいか教えてほしい」、定時制高校の英語科教員から「一人残らず学ぶ権利を保障するというのを考えながら定時制高校で教育実践をしてきた」などの発言がありました。

★ 木を見て森も見て ～ 複眼的な視点で

香山リカさん

保育、教育など現場でがんばっていらっしゃる方のお話がいろいろありました。現場と同時に社会にも目を向けて、安倍政権は何をしようとしているのか、教育委員会は何をしようとしているのかも見ていかなければならないと思います。そういう意味では、

「木を見て森を見ず」でなく「木を見て森も見る」という、現場を見ながら社会も見るという、二つの視点を私たちは忘れてはいけないと思います。

先ほど自衛隊のキャンペーンを見たというお話がありました。ありがとうございます。自衛隊アクション in 福岡天神」というグループだと思います。その代表をしている方は高原朗子さんという熊本大学の教授で、教育学者で、専門は発達障害支援なんです。そして日本会議の日本女性の会の重鎮です。日本会議は「親学」というのをやっていて、発達障害は親が子どもと一緒にいない、愛着障害から生まれるんだと言っています。日本会議主催の「おしゃべり憲法カフェ」というので講演もしている方です。

私たちは、地に足をつけて、複眼的な目で現場も社会も見ながらこれからも一緒にやっていきたいと思っています。

がったのですから、このツールを私たちももっと使うべきとは思いませんか？

(子どもの本9条の会)



書籍もたくさん売れました

司会

時間が来ましたのでこれで交流タイムを終わります。質問や発言希望を出されたのに取り上げることができなかった方もあるかと思いますがどうぞお許してください。

追

シンポジウムⅡの後に出された発言希望用紙 から

私も同世代として、若い母親がケータイばかり見て子育てしているのを苦々しく思っておりました。

けれど当人の言葉で「周りに心を開いて悩みを語る母親仲間がない。公園に子どもをつれていっても、自分は周りに気を使って本音の相談なんかできない。でもネットで子育てのつらさを書けば、すぐに全国から暖かい励ましやアドバイスがもらえて、自分のつらさをわかってくれる人がいるということが唯一、自分の孤独な子育ての中の喜びになっている」ということを聞いて、時代の変化を感じ、これまでの古い価値観で若い人を批判してはいけないと思いました。

「日本シネ！」もその問題はまさにネットを通じて広

アピールの提案・採択



提案 後藤尚子 さん

(北九州子どもと教育のために手をつなぐ会)

閉会のあいさつ

子どもへの 共感力と想像力を培い 市民が学校や行政と ともにつくる教育を

佐藤 学 さん

本日の参加者は 226 名、大成功です。

率直に言ってしまうのは、福岡で開くことに戸惑いがありました。遠いし、何より私たちの会はほとんどお金がないのです。しかし皆さんのご協力によって実現することができました。本当にありがとうございました！

今日一日、話を聞きながら一番思ったことは、子どもや教育の現実に対する私たちの想像力の問題です。今、子どもたちはどう生きているのか、教育の現場はどうなっているのか。誰がどのように苦しみながら日々を送っているのかということに対する、共感能力と想像力です。

人の痛みに共感できる能力、もうひとつは、声にならない声に耳を澄ます能力です。

「学びの共同体」が成功するようになったのは、民主主義は聞きあう関係からしかスタートできないということを経験してからです。民主主義は「話しあい」ではないです。互いに聞きあい対話をつくりだし、互いに主人公になりあう。そういう関係をつくりだすことなしに、今の日本の社会は救えないと思います。

3 年くらい前、日本学術会議の第 1 部会の議長をやっていた時に、ある調査をしました。日本では、5 歳児以下に注がれている一人あたりの税金と、65 歳以上に注がれているそれにどれだけ差があるか。65 歳以上が子どもの場合の 25 倍です。子どもが支えられていない。それは親も支えられていないということです。また教師たちも支えられていないということです。

学齢期の子どもを持っている世帯は全世帯の 12%しかありません。何らかの形で子どもにかかわっている人たちがみんなで声をあげていかないと、この社会は動かない。その流れをどうやってつくっていきけるのか。その一番の基盤は憲法だと思います。憲法をよりどころにすることなしに、教育の未来はない、と思います。

私は一方で、「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」(2015 年 12 月結成)の発起人・呼びかけ

人ですが、市民と政党がともにつくりだす新しい政治、新しい社会を求めました。参議院選挙の時は、熊本が最初でしたが、全国 32 の 1 人区に統一候補をたてることができました。6 か月かかりました。今回の衆議院選挙ではなんと 283 の 1 人区で統一候補をたてることができました。不十分さもたくさんありましたが、各地で市民が立ちあがって共闘の体制がつくられました。これが 10 日間でもできたのです。

「市民連合」の教訓からいえることは、教育も同じだと思ふのです。市民が主権者としてつくる教育、そこに学校も行政も巻き込んでいき、新しい流れをつくりだす必要を、本日痛感しました。

また、明日からのたたかいにとりくんでいきましょう！きょう 1 日、どうもありがとうございました。

司会

一人ひとりが本当に大切にされる社会をめざして、がんばってみたいと、改めて思いました。

長時間にわたりご参加いただき、ありがとうございました。

